



# 南中だより

令和2年度 NO.55

令和2年12月23日

臼杵市立南中学校

校長 東 克彦

## 「第55回 OBS 私の作文コンクール」銅賞

『小さくてもいいじゃん』 一年 小野 未来

身長143センチメートル。整列するときは決まって一番前。

背が低いこと。それは、私にとって最大のコンプレックスだった。席替えでは、「未来ちゃんは見えにくいかもしれない」という周囲の気遣いからなのか、自然と前の方になる。「これから大きくなるよ」という励ましの声かけが、「今は小さい」ということを強調されているようで、嫌でたまらなかった。姉は小学生の頃には150センチはあって、クラスの中でも高い方だった。同じものを食べて同じように生活しているはずなのに、私はなぜこんなに小さいのだろうと、どんどん嫌になってきた。

そんな私が通う中学校は、全校生徒が五十人ほどの小さな学校だ。三年間クラス替えはない。ほとんどのクラスメイトが小学校から一緒なので、あまり新鮮さもないまま入学した。中学校に行ったらたくさんの新しい友達と仲良くなりたかった私は、がっかりした。「やっぱり小さいって嫌なことばかりだな」と、自分のことも学校のことも好きになれなかった。

しかし、いざ入学してみると、小さい学校だからこそその良さがあることに気が付いた。まず、全校がまるで一つの学校のようなところだ。今年は、新型コロナウイルスの影響で入学式翌日から臨時休校だったが、グラウンドが開放されていて、体を動かすに行くことができた。家にいても何もすることもないし…と何となく学校に行ってみると、先輩も来ていて、私達新入生とサッカーや鬼ごっこなど、汗びっしょりになるまで遊んでくれた。学年や性別に関係なくみんながお互いの名前を覚えていて、気軽に話ができる。クラス替えがないことを残念に思っていたが、こんなにも先輩と仲良くなれるのは、とても楽しい。

次に、一人一人に輝ける場所があること。少人数なのでどんな行事をするにしても、必ず一人一役務めなければならない。それをしっかり果たそうとすると、自信がついてくる。私自身、中央委員や応援団を経験して、人前で話すことに慣れてきた。大きな学校だったら、こんなに活躍できることはなかったと思う。

私は、小さくても大きくても関係ないことに気が付いた。私も、大きさだけで判断されるのは悲しい。大事なものは中身だ。それなのに、一番大きさにこだわっていたのは自分自身だった。私は、もっと自分の中身を磨いていこうと思った。そんなふうに考えると、自分にもよさがあることに目を向けることができた。私は「何事も決めたことは最後まで頑張っているね」、「頑張り屋だね」と言われる。何かを頼まれた時は、すぐ動いて手伝ってくれると言われたこともある。小さな体だけど、小学校の頃からほとんど休まず元気に登校している。あいさつの声も、「声大きいね」とほめられる。私にだって、たくさんのいいところがあるのだと気付いて、うれしくなった。

そうして自信が持てるようになると、入部した卓球部でも、「どうせ小さいから」とあきらめずに練習できるようになった。背の高い人に比べると、小さい私は不利だ。しかし、その分フットワークを大事にして、どんなところに来た球も絶対取るんだと強い気持ちを持って打ち返している。試合では、相手の苦手なところを早く見つけて、そこを集中的に狙うように工夫している。小さい自分にもできることはたくさんある、そう思って頑張っている。そして臨んだ、初めての大会。私は二位に入ることができた。「未来の練習のたまものだね」と先生が言ってくれた。また一つ、自信になるものができた。

小さくてもいいじゃん！私はこれからも、この言葉を胸に、小さな学校で大きく成長していきたい。



人には身長が高い低い、視力がいい悪い…いろいろな特徴があります。他人と比べてしまうこともあるけれど、大切なのは自分の特徴を認めて努力すること。それが自信につながり、自分を好きになっていくと思います。

まだ紹介できていない入賞作品は、まだまだたくさんあります。

「令和2年度人権作文」市同研会長賞 2年中塚美空

「令和2年度人権標語」奨励賞 3年吉田悠花

「うすき市民読書感想文コンクール」市長賞 1年小野桜空

「うすき市民読書感想文コンクール」佳作 2年神野心渚

うすき市民読書感想文コンクールは、25日（金）中央公民館ホールで表彰式があります。最高賞である市長賞を受賞する小野桜空さんは読み上げをする予定です。みなさんおめでとうございます。